

会議名称	平成 30 年度 第 1 回杉並区地域自立支援協議会 記録
日 時	平成 30 年 5 月 15 日 (火) 13:30～16:00
場 所	区役所西棟 6 階第 5・6 会議室
<p>&lt;出席委員&gt;          高山由美子委員 (会長)、春山陽子委員 (副会長)、田中崇委員、能勢豊委員、金子めぐみ委員、田中雅子委員、島田祐次郎委員、平由美委員、川口理恵子委員、渡邊英夫委員、田中直樹委員、鈴木正道委員、相田里香委員、阪東智子委員、継仁委員、寺西宏晃委員、島田有三委員、修理美加沙委員、下田一紀委員、細貝長武委員、永田直子委員、田中澄子委員、</p> <p>&lt;欠席委員&gt;          なし</p> <p>&lt;傍聴&gt;          なし</p> <p>&lt;出席幹事&gt;          保健福祉部障害者施策課長：河合義人、障害者生活支援課長：諸角純子          杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：岡本幸子</p> <p>&lt;事務局&gt;          障害者施策課：目黒紀美子、池田恵子、佐々木夏枝、星野健、田邊信広 (記録)          障害者生活支援課：岸義久          高齢者在宅支援課：藤代陽子</p>	
<p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 会長挨拶</li> <li>3 変更委員紹介</li> <li>4 報 告             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幹事会より                  今年度の進め方等</li> <li>(2) 地域移行促進部会報告</li> </ol> </li> <li>5 議 題                  地域生活支援拠点等の整備について</li> </ol> <p style="text-align: right;">*途中10分間休憩</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6 閉会</li> </ol>	

## 【配布資料】

- 資料 1 : H30 年度 委員名簿
- 資料 2 : 第 4 回本会で出された意見と課題整理
- 資料 3 : H30 年度 本会と各部会のスケジュール
- 資料 4 : 地域移行促進部会活動報告(精神グループ)
- 資料 5 : 事業所向けアンケート集計結果
- 資料 6 : 病院向けアンケート
- 資料 7 : 地域移行促進部会活動報告(知的グループ)
- 資料 8 : 地域生活支援拠点等に求める機能について

## 【内容】

### 1 開会

### 2 変更委員紹介

- ・都立中野特別支援学校 柏木委員から田中雅子委員へ変更
- ・杉並区社会福祉協議会 西明委員から平由美委員へ変更

#### 幹事変更紹介

- ・障害者施策課長 出保裕次から河合義人へ変更

#### 事務局紹介

- ・高齢者在宅支援課地域包括ケア推進係長 藤代陽子 事務局として追加

### 3 会長挨拶

・昨年度から引き続きとなるが、新しいメンバーも加わり、より具体的な議論をしていきたい。そして、その目的は障害の方たちが地域の基で安心して暮らすことができ、それが杉並区にとって障害あるないに関わらず安心した地域をつくることになるということを、確認しながら進めていきたい。

### 4 報告

#### ①幹事会より

・平成 29 年度第 4 回地域自立支援協議会で出された意見と課題整理について、資料 2 を基に事務局から説明。今年度の進め方については、資料 3 を基に説明。

→今年度、本会における部会の報告については、第 1 回で地域移行促進部会。第 2 回は働きかたサポート部会。第 3 回は相談支援部会とさせていただきたい。また、差別解消支援会議、計画部会の報告については、合間に行う予定。

#### ②地域移行促進部会報告

・精神グループの報告を、資料 4・5・6 を基に寺西委員から説明。

・知的グループの報告を、資料 7 を基に鈴木委員から説明。併せて、知的グループホームの土日祝日

の利用者の過ごし方について、職員体制に絡めて、世話人の情報交換会にてアンケートをとっており、次回には、アンケート結果を報告するとのこと。また、その情報交換会での話し合いでは、世話人がかなり疲弊している様子が伺えたとの報告あり。

(春山委員)

・地域移行プレ事業を、今年度からすまいる高井戸・高円寺でも実施していく。現在、地域移行について事業所(委員)がどう考えているか意見を伺いたい。(春山委員)

(田中直樹委員)

・一般論として、現在入院している人たちは、きっかけさえあれば、退院できる人たちが多く、それほど大変ではないと感じている。また、630調査の内容が変わってきており、実態が見えにくくなっているため、区から精神病院への調査は続けていってもらいたい。

(下田委員)

・すだちの里からGHへ。地域移行支援の支給を受けるほどではない支援も多い。都外施設の方に、月2回会いに行くのは、物理的な距離・経済的に難しい。また、GHの受け皿が少ない中で、知的障害の地域移行を一事業所で行っていくは厳しい現状にある。精神障害の退院促進に興味はあるが、ノウハウがないため、研修に参加して前向きに考えていきたい。

(修理委員)

・精神障害の方は、医療との繋がりが必須なのだが、障害の受け入れができていない人もいて、入退院を繰り返している。一人で退院するのは難しいので支援が必要だと思うし、一人ひとりがそのことを理解することによって地域移行が進んでいくのでは。また、サービス等利用計画を立てなければ、地域移行支援も利用できないので、一般相談が増えれば良いということだけでなく、サービス等利用計画を立てる事業所も増やしていく必要があるため、区でも検討していってもらいたい。個人的には、地域移行をやりたいのだが、マンパワー不足でできていないが、作業所での受け入れ、サービス等利用計画を立てることはできるので協力していきたい。

(細貝委員)

・元々、介護保険の事業をやっていて、地域移行のイメージがわからず、ノウハウもないので、今後研修に参加して検討したい。(細貝委員)

(相田委員)

・介護保険がベースの事業所にとっては、全ての環境が異なり、支援をする側に回するには、まだまだ時間がかかると思っている。

(田中直樹委員)

・地域定着支援を率先して支給してもらえれば、地域移行も進むのでは。

## 5 議題

・地域生活支援拠点等の整備について、資料8①・8②を基に事務局から説明。

・今後、具体的にどのような機能が必要で、現在ある機能については強化が必要なのか、各委員から意見をもらう。

(永田委員)

・面的整備をするということは、それぞれの事業所が機能や役割を分担することになると思うが、ど

こかが、中心となるキーマンの役割を担う必要があるのでは。グループホームなどの運営でバックアップ・応援体制が必要。緊急時に受け入れてくれるところと、出向いていく応援体制があるといい。また、基幹相談支援センターの在り方を、地域生活支援拠点の話の中で、見直していく必要があると思う。

・当事者の意見をどう聞いていくかについては、地域生活支援拠点のことについて、**障害者連絡推進協議会**でも取り上げられており、地域自立支援協議会との兼ね合いがはっきりしていないため、連合会の中で、不満が出ている。

(能勢委員)

・緊急時対応について、精神当事者からすると 24 時間対応、特に夜間電話対応してもらえると嬉しい。少しでも電話できれば不安解消できる。

・当事者の声を聴くには、当事者部会があるといいと思う。当事者だけではできないが。

(田中澄子委員)

・支援者の人材育成、とても難しい。事業所によっても研修の内容は異なると思うが、研修といっても技術的な決められたことだけやるのではなく、心の問題の研修が必要と感じている。以前、子どもが、お腹が張るということから、通所先の職員がお腹に湯たんぽをあててくれたことがあった。結果火傷を負ってしまい、職員が責任を感じ謝罪をされたが、私は、障害者本人のためにと考えて行った行為に感謝していると手紙に書いて伝えた。その後、職員は前向きになったとのこと。人材を育てるというのは、親も一緒に職員を育てていくという気持ちが必要ではないか。

・体験の場については、知的障害の方たちは、場所を変えて泊まるということが不得意。慣れるのに時間がかかる。できれば 1～2 か月程度使えるといい。それによって、グループホームなどに移行する気持ちの準備ができる。是非、そのような体験の場を作ってもらいたい。親も預けるだけでなく、本人の状況を伝えるなど、率先して協力していく必要がある。

(田中崇委員)

・地域で暮らしていくにあたって、ヘルパーの数が不足している。取り合いになっている。待遇の改善が必要ではないか。なるべく、今の家で暮らしていきたい。

(金子委員)

・親がいなくなったら、一人で生活していくのが不安になることがある。助けてくれる人がいると嬉しい。

(鈴木委員)

・モチベーションというのが、支援者にとってとても大事。研修では、技術的なことではなく、頑張ろうと思えるようなものをお願いしたい。また、現任研修では参加しやすい時間で実施するなど配慮してもらいたい。研修に参加する人は、元々モチベーションも高い。低い人にも、参加してもらえるような研修、掘り起こしが必要。

(修理委員)

・3月に相談支援部会でアンケートをとった。杉並区として基幹相談支援センターがどういう役割を果たして、どう連携していくのが大事との意見があった。

・365日、24時間の電話相談があると、障害者にとって安心だと思うが、他自治体の話をきくと、緊急時でない電話も増えたとのこと。どういった場合に利用するかなど、細かい制度設計をする必要があるのでは。

・体験の場の課題では、家を貸してくれない、住むところが見つからないということが多い。今後、障害分野だけでなく、住宅課や居住支援協議会などとの連携を。

・どこかにいって一人暮らしを体験して、アセスメント行うのではなく、今いる環境で体験できるようなところもあっていいのかと思う。

・精神障害の方が、地域で生活するには、医療体制の整備が重要であって、調子が悪くなった時に、入院できる病院との連携体制も非常に大事。ゴールデンウィーク中に、精神科医が倒れ、代わりに受けてくれる精神科を探したのだが、なかなか予約がとれず、紹介状もないので受け入れをしてくれなかった。紹介状があっても、その薬は出せないなど、かなり苦労した。そのようなことから、地域で安心して生活するには、医療との連携も今後整えていかないと進まないのでは。

(渡辺委員)

・体験の場について、就労継続支援B型を利用している人は、家族も含め、一度入ると高齢になるまでずっと同じところに通うと考えていることが多い。就労継続支援B型間で利用者の交換や体験ができると人生の幅も広がるのでは。

・支援者の人材育成では、とても時間がかかる。入ってすぐに辞めてしまうことも多いが、この仕事の楽しさを感じる前に辞めてしまう。辞めてしまう理由としては、人間関係でつまづくことが非常に多い。今働いている職員が、新しい職員に夢を見せられていないのが非常に問題なのかもしれない。

・研修については、階層別のもや連絡会、チューター制度、メンタルヘルス、各業態の中での課題や専門性を話し合える場を整備していく必要があるのでは。

・小中学校の頃から、障害者に関わるようにするなど啓発を進めることが大事。

・福祉の仕事はかっこいいと思われるようにしていく必要がある。

・研修については、新人に対して仕事を頑張っていけば、こうなるなど、先が見通せるような研修が大事だと思う。

(高山会長)

・チューター制度で、職歴5年以上の職員が新任職員につき実施しているのだが、新人側だけでなく、伝える側にもメリットがある。人に伝えることによって、自分が行っていることを言語化できるようになり、仕事の振り返りにもなっている。ただし、人のマッチングが難しい。小規模の事業所などになると人数の問題もあるため、可能であれば、地域で事業所を超えて行える仕組みがあればと思う。

・小中学校からの啓発については、三鷹市にある生活介護の事業所では、地域の学童クラブに通う児童に来てもらい、作業を見てもらうなど交流をしているところもある。学校単位では、大きいため初めは、少し小さい単位で行っていくのもいいのでは。

(阪東委員)

・共生型サービスが、今年度から介護保険にも導入されたが、デイサービスに知的障害の方が入ってくることに難しさを感じている。また、高齢者の支援と障害者の支援、目指すものは同じだと思うのだが、プロセスなどが異なるように思う。早い段階から、交流して考えのすり合わせを行う等必要ではないか。

(高山委員)

・課を跨いで研修などの実施は難しいのか。

(相田委員)

・ケアマネ協議会が、介護保険課から受託して研修を年6回実施している中で、その内1回を障害分

野の研修を行っている。少しずつ、ケアマネも 65 歳問題など広い視野をもって、現在の社会資源を活用しながら、地域で支えられる仕組みを考えてきている。また、高齢者の地域ケア会議（荻窪圏域）では、昨年度 3 回にわたって、「精神障害者の支援を考える」というテーマで研修を行った。その際には、障害分野の支援者にも参加してもらおうなど、連携が広がってきている。

（島田有三委員）

・地域生活支援拠点の関係で、八王子市に見学に行った。支援が縦割りになりがちであるが、コーディネーターが中心となって支援をしているとのこと。杉並区でも参考にできないか考えている。

（寺西委員）

・すまいる（障害者相談支援センター）では、3 障害対応ということで実施しているが、精神障害に対しては慣れているのだが、他の障害については経験が不足しているため、他の施設などとの交流・研修の場、一緒に考えていく場があるとよい。世田谷区でのことだが、事業所間でのネットワークの中で、シンポジウムを企画することがあり、その中で多くのことを学ぶことができた。ネットワークを活かした人材育成もいいのでは。

・杉並区として、どんなことを目指し、どのような人材を育てていきたいか形にして、皆で共有することによって、モチベーションもあがるのでは。

・体験の場については、地域とかけ離れていないような場である必要がある。体験時に支援体制が整いすぎていると、実際地域に戻る際に困ってしまう。身近なところで気軽に体験できる場があるとよい。自宅でできる体験もいいと思う。また、住まい探しの問題もあり、精神障害者の方だと何かしら支援者がいないと受け入れてくれない。不動産会社との連携も必要。

（能勢委員）

・精神障害があり、親の介護もあると抱えきれなくなり、時にパニックになることもある。ただ、ケアマネージャーが精神障害に対して理解がありとても助かっている。

（川口委員）

・就労を継続するには、住み慣れた地域で暮らすことが大事。発達障害の方で、母が要介護状態であり、夜間父と介護を行っていて、疲れて仕事に遅れてしまうことがある。本人としては、今の家で就労をしながら生活を希望されているため、今後、他機関との連携・情報共有が必要になってくると思っている。

・人材育成については、長く働け続けるとスキルがつかない。同じ職場内では息詰まることもある。他の機関とコミュニケーションをとれる場がスキルアップに必要。

（継委員）

・杉並区内に精神科医が少ないので、近隣の医療機関で助け合うシステムがあればいいと思う。精神科薬、精神科以外の医師は 3 種類以上処方することができないため、精神科医の中で助け合うネットワークをつくってもらった必要がある。依頼するようであれば医師会になる。

（島田裕次郎委員）

・年齢が下がるにつれて、医ケア児が増えてきており、医ケアのニーズも多様化している。医ケア児が通所できる場所を整備する必要がある。また、生活介護でも働く喜びを感じられるような事業所が増えればよい。

・成人期の余暇活動支援については、学校卒業までの間は放課後等デイサービスがあるが、卒業後の活動の場になると、自宅と通所施設だけとなり、他に整備されていないので、その部分をつくって

けるとよい。

(田中雅子委員)

・復籍という言葉聞いたことがあるか。特別支援学校に通っている児童が、地域の学校にも重複して籍をもつことをいう。学校は異なるが、地域でのつながりができることで、障害に対する人材育成につながるのでは。小さい頃からの共生社会の実現に協力していきたい。また、地域自立支援協議会に済美養護学校、区立小中学校など教育分野も入る必要があると思う。

(平委員)

・地域生活支援拠点の整備のことを知らなかった。普段の業務の中で、他分野の方と共有する場が少ないと感じている。

・本来は地域で生活できる人たちが、体制が整っていないために地域に戻れない現状があることや、福祉の現場が疲弊していると改めて思った。この問題は、ここだけの話だけでなく、様々な福祉現場で起きていることだと思う。

(下田委員)

・人材の育成の部分では、例えば事業所間で職員を回すなど、杉並区内で人材が流出しないような仕組みが必要ではないか。また、利用者との仕事は楽しいが、組織内でのことで疲弊する場合、一事業所だけでは対応しきれないため、階層別の研修や集まりがあればよい。

・緊急時対応のときに、短期入所の場所で、支援者はいないが、場所は貸してくれるところに、ヘルパーも一緒にそこで過ごすなど、実際にやっけていて、利用できる事業を把握しておけるとよい。また、実際に24時間電話相談等をしているところに、どんな状況なのか情報収集する必要があるのでは。

・コーディネーターは他分野と連携することが重要になる。

(春山陽子委員)

・面的整備について、現在ある資源を利用して形にすることはできると思うが、どこが情報を集約して提案していくのか。コーディネーターをどのような人たちに依頼していくのか考えていく必要がある。

・昨年度は、介護保険分野の人たちとの連携に手ごたえを感じた。また、安心サポートとの連携も引き続き行い、学校との連携もしていきたい。

(田中直樹委員)

・地域生活支援拠点の事業で、新たにコーディネーターをつけるのではなく、杉並区にはすまいる(障害者相談支援センター)が3か所あり、そこがコーディネーターを兼ねれば、すぐにでも実施できるはず。

・人材育成については、現状は育成よりも確保が必要。募集しても人が集まらない。杉並区の広報誌に求人を毎回掲載してもらいたい。

## 6 その他

(事務局)

・今年度のシンポジウム、平成31年1月24日に実施予定。実行委員を委員から数名お願いをしたい。希望者がいなければ、個別に声をかけさせてもらう。

以上